

6 九州大学「クリーン実験ステーション」

1. 研究施設の設置及び運用の目的

九州大学「クリーン実験ステーション」は、平成20(2008)年度文部科学省施設整備整備費補助金（大型特別機械整備費）を原資として、佐賀県シンクロトロン光研究施設（以下 SAGA-LS と略記）内に、九州大学「硬 X 線ビームライン」とともに設置された先端研究施設である。平成 21(2009)年 7 月に施設整備を完了し、同年 11 月より文部科学省先端研究施設共用促進事業「九州大学クリーン実験ステーション」を開始した。本事業では、地域活性化のための新産業創出と人材育成を主な使命として、「先端分子技術を核とする九州先端ものづくりセンターの構築」を目標に施設の運用を行った。

2. 事業運営体制

図1に「九州大学クリーン実験ステーション」の運

営体制を示す。技術職員2名及び事務職員1名を、「クリーン実験ステーション」に併設した運営サポートオフィスに常駐させ、SAGA-LSを運用している「佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター」とも連携しながら本事業を推進した。また、九州大学知的財産本部(IMAQ)の産学連携コーディネーターとの協力により、企業等からの技術相談に対して有効に当施設を活用できるような体制を整備した。さらに、本事業の推進のため、運営に係る基本方針の検討・決定、施設共用課題の採択の決定を行う「運営委員会」、「課題選定・評価委員会」を設けた。なお、これらの委員会は、九州大学、佐賀大学、企業等から構成されている「九州大学クリーン実験ステーション」アライアンスコア（平成22年4月よりリサーチコアに改組）メンバーを中心に、大学教員の他、企業よりアドバイザー2名を加えて計11名で構成した。

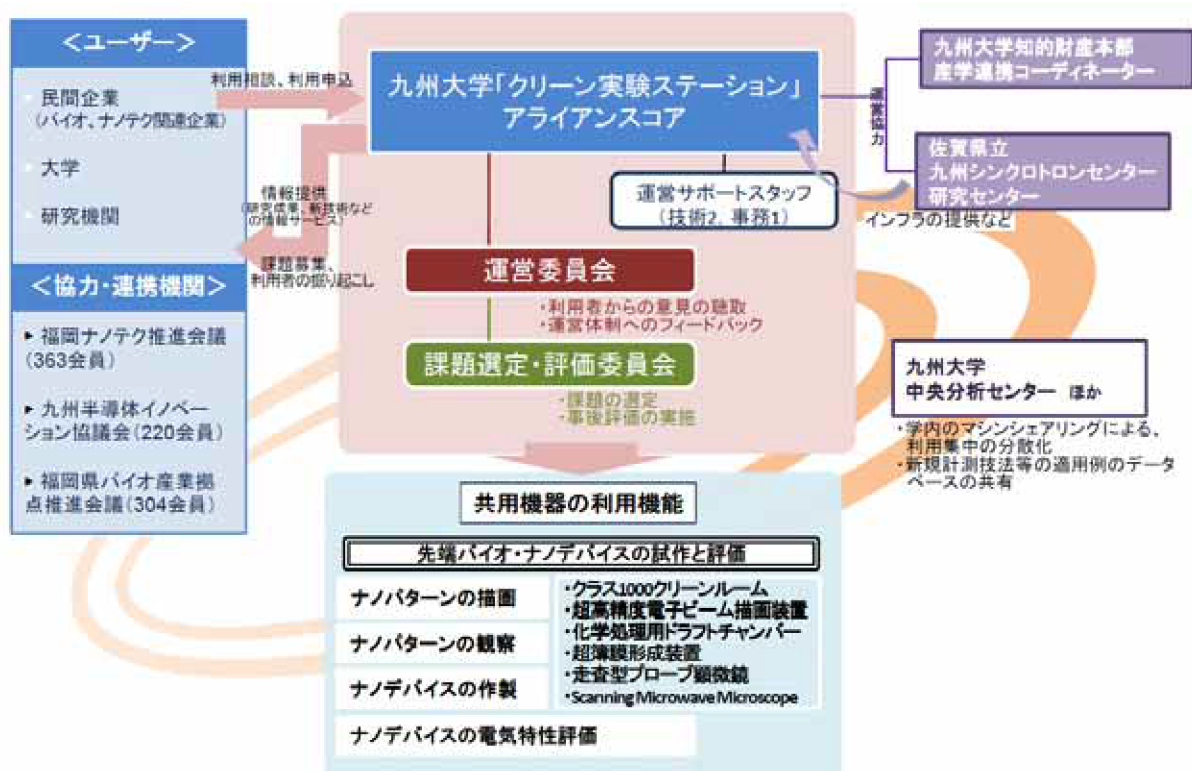


図1 九大「クリーン実験ステーション」運営体制組織図

3. 共用実績と成果報告会

共用促進事業の趣旨は、税金で購入した高価な研究設備を大学内部のみで使うのではなく、施設の総運転時間の一部を外部、特に産業界にも開放して、産学共同研究やイノベーション技術の研究開発を進め、それに基づく地域産業の高度化、新産業の創出、さらには先端科学技術を担う人材の育成に貢献することにある。共用に供した時間は、総運転時間に対して、事業を立ち上げた2009年度は10%、2010年度は40%となった。

施設の利用は九州大学クリーン実験ステーションのホームページ(<http://kuclf.jp/>)にて公募し、手続きの簡素化のため、利用者がWebから必要書類を取得し提出ができるシステムを構築した。各年度末には施設利用に関連する成果報告会を、特に若い人たちに英語による議論の場を提供することを目的として、国際会議の形式で開催した。2010年度の成果報告会の表紙を図2に示す。

4. 地域産業界への広報活動

大学の知的財産本部とも協力し、パンフレットの作成・配付、講習会や成果報告会での展示を行い、本事業の広報を行った。また、利用ニーズが見込まれる地域の企業を対象に図3に示すようなアンケート調査を実施し、関心ありと答えた企業に、それぞれ「電話説明」「企業訪問」「資料送付」等を行い、企業が抱え

平成22年度

九州大学クリーン実験ステーション 成果報告会

期 日：平成22年3月23日(水)
場 所：博多駅前ビル 3F 会議室



図2 平成22(2010)年度成果報告会表紙。(詳細は<http://kuclf.jp/>に公開。)

る技術的問題点について議論しながら、本事業の紹介を行った。

5. おわりに

今後さらに、本施設が産学共同研究や地域産業界からの積極的な利用に供されることを期待している。

九州大学大学院工学研究院
本岡 輝昭

● アンケート調査(6月～8月)

地域の中小関連企業(280社)に施設の紹介も兼ねたアンケートを実施

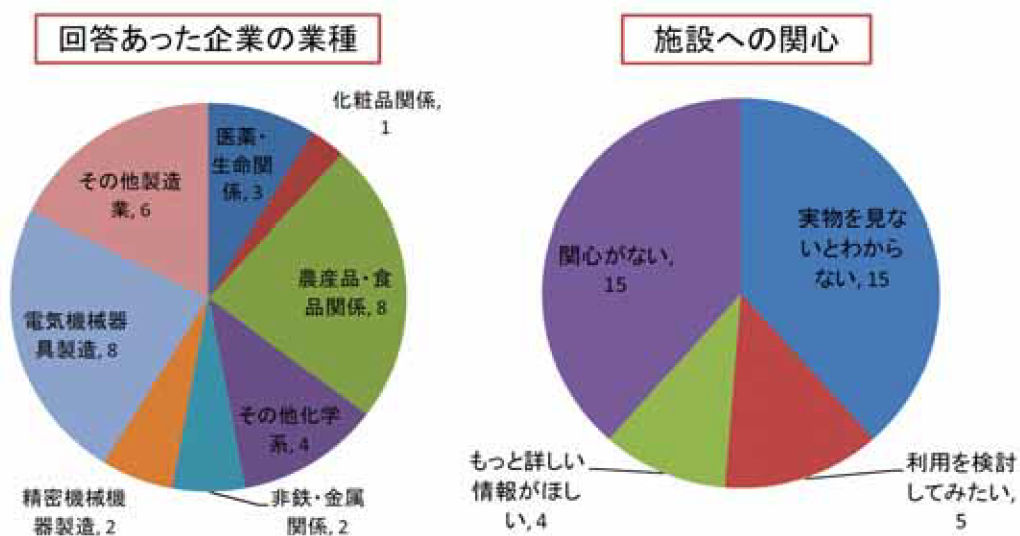


図3 地域の企業を対象に実施したアンケート調査の集計結果の一例